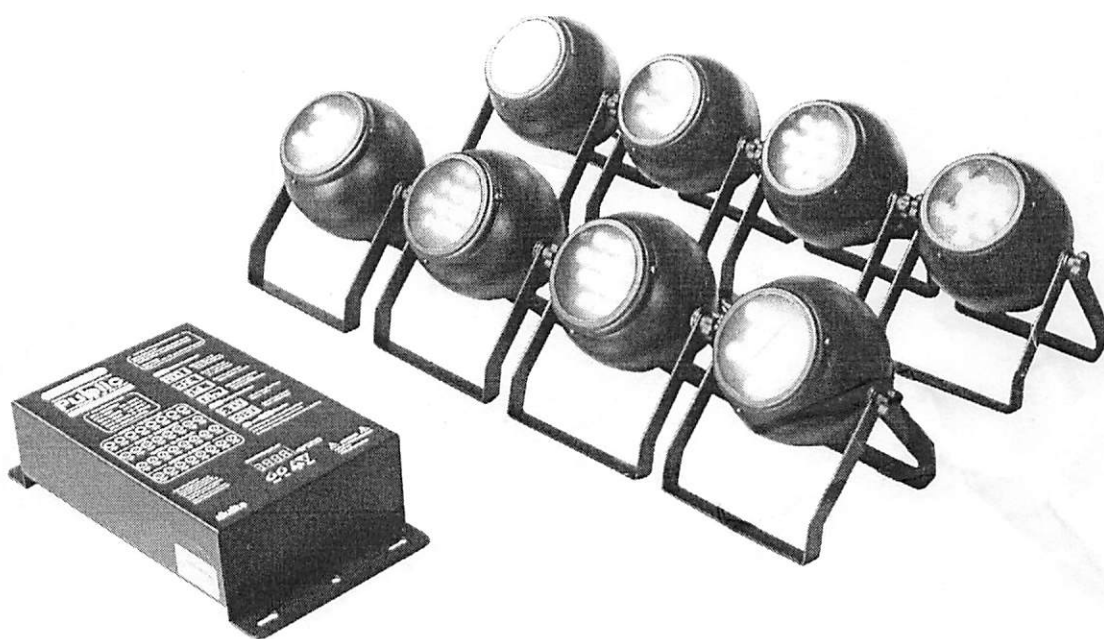
OCTopoD 30

Octopod

Octopod 30/Octopod 50　取扱説明書

株式会社サウンドハウス
〒286-0044　千葉県成田市不動ヶ岡 1958
TEL:0476(22)9333　FAX:0476(22)9334
http://www.soundhouse.co.jp shop@soundhouse.co.jp

はじめに

この度はELATION　Octopodをご購入頂き、誠に有り難うございます。
本製品は100万種類もの色を発光することが可能なLED照明システムです。DMXコントローラーを本体に接続し、様々な照明エフェクトを操作することが可能です。本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使い頂く為に、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読み下さい。また不明な点が生じた場合に備え、保証書と一緒に大切に保管して下さい。

安全上のご注意

- 感電、火災の危険性を最小限におさえる為に、雨天や高湿度の状況下で本製品を使用することはおやめ下さい。
- 水などの液体を本体表面にこぼしたり、本体内部にかけたりしない様ご注意下さい。
- 定格電圧AC100V、50/60Hzでご使用下さい。
- 損傷、断線した電源ケーブルを使用することはおやめ下さい。
- アースピンは本体内部回路がショートした際に感電、火災の危険性を抑える役割をします。電源ケーブルのアースピンを取り除くことは絶対におやめ下さい。
- どのような状況においても本体のカバーを外さないで下さい。
- 必ず風通しの良い、壁から約15センチ以上離れた場所に設置して下さい。
- 本体に損傷がある場合は本製品の使用をやめて下さい。
- 本製品は屋内でのみ使用可能です。屋外で使用した場合保証対象外になりますので予めご了承下さい。
- 長期間本製品を使用しない場合は電源ケーブルをコンセントから外して下さい。
- 電源ケーブルは踏まれたり、物に挟まれたりしないようご注意下さい。
- 本製品はラジエーター、ストーブ等の熱源から離して使用して下さい。
- 本製品に異常を感じた時は速やかに使用を中止し、販売店又は正規代理店にお問い合わせ下さい。

付属品

- Octopod LED灯体×8
- DC/信号ケーブル×8
- Pixel Drive 8コントローラー/DMXインターフェース（Octopod 30）
- Pixel Drive Xコントローラー/DMXインターフェース（Octopod 80）
- 電源ケーブル
- 取扱説明書

※ DMXコントローラー、DMXケーブルは付属しておりません。

基本設定

Octopod の灯体を付属の DC/信号ケーブルを使って接続し、以下の図に従って灯体のアドレスを設定して下さい。

Octopod 30

Octopod 80

フロントパネル/サイドパネル機能

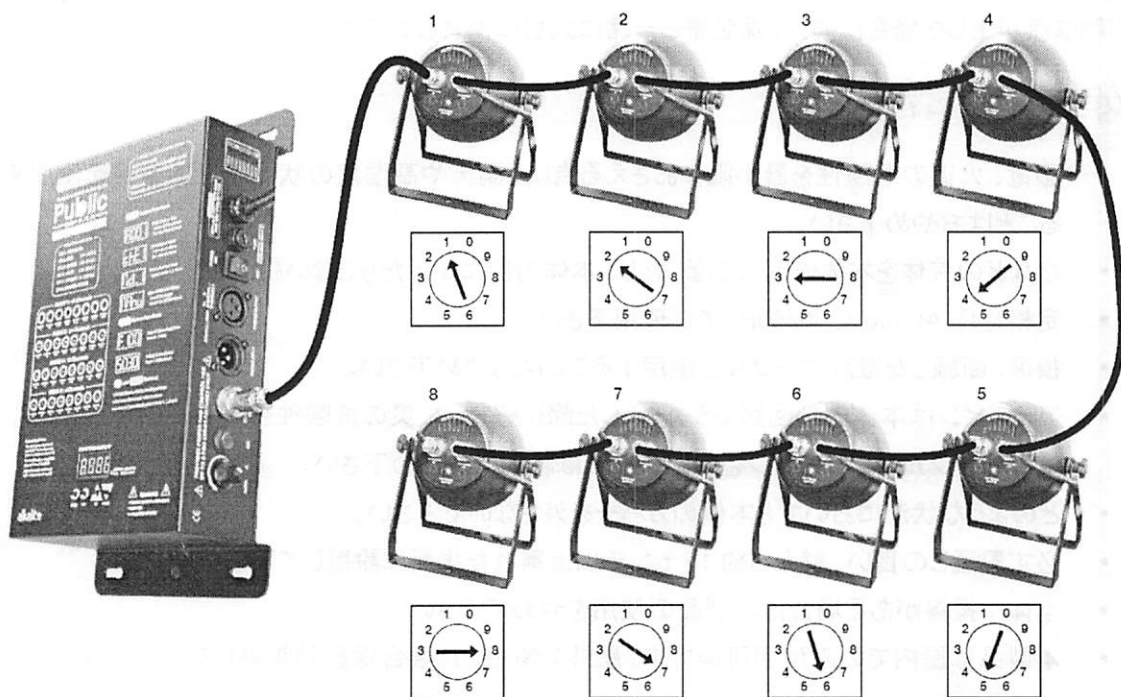
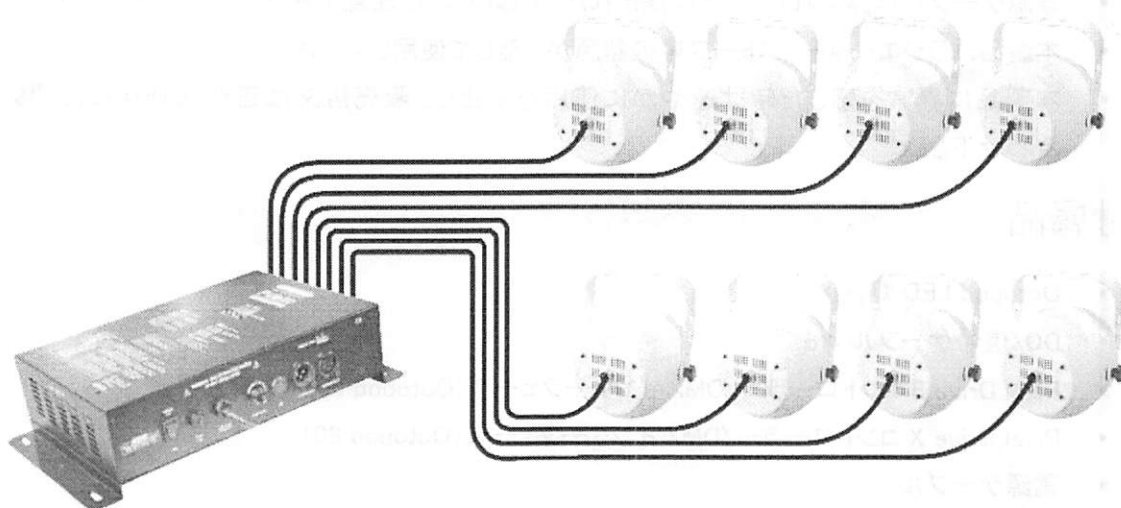
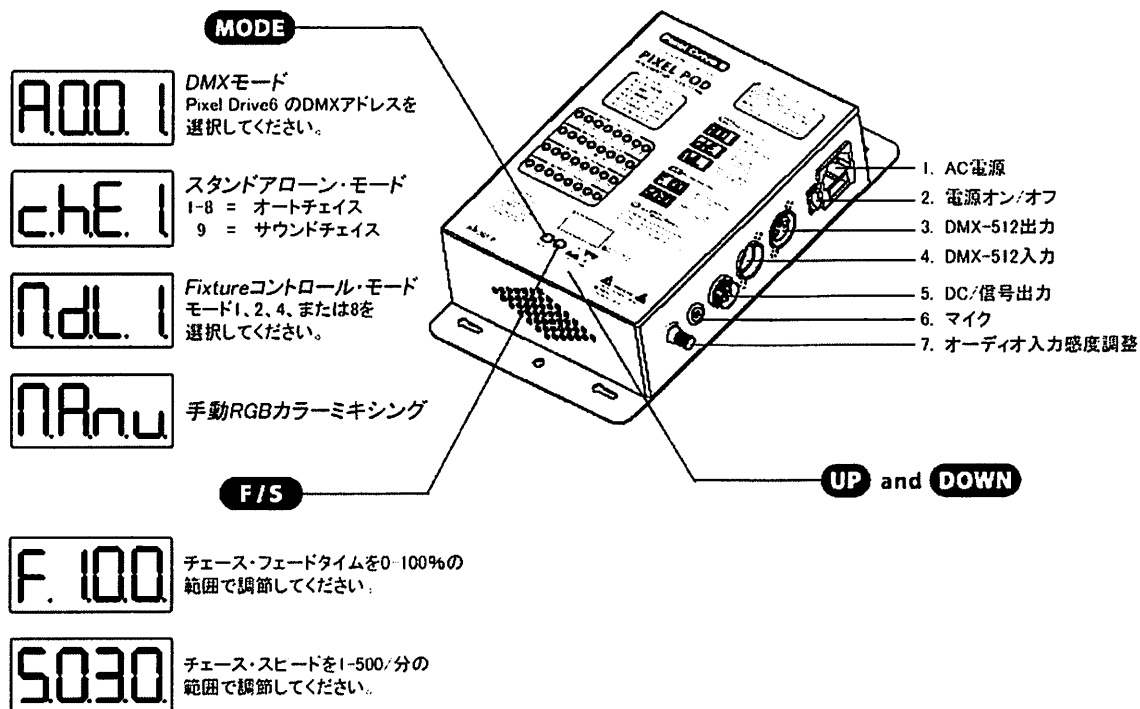
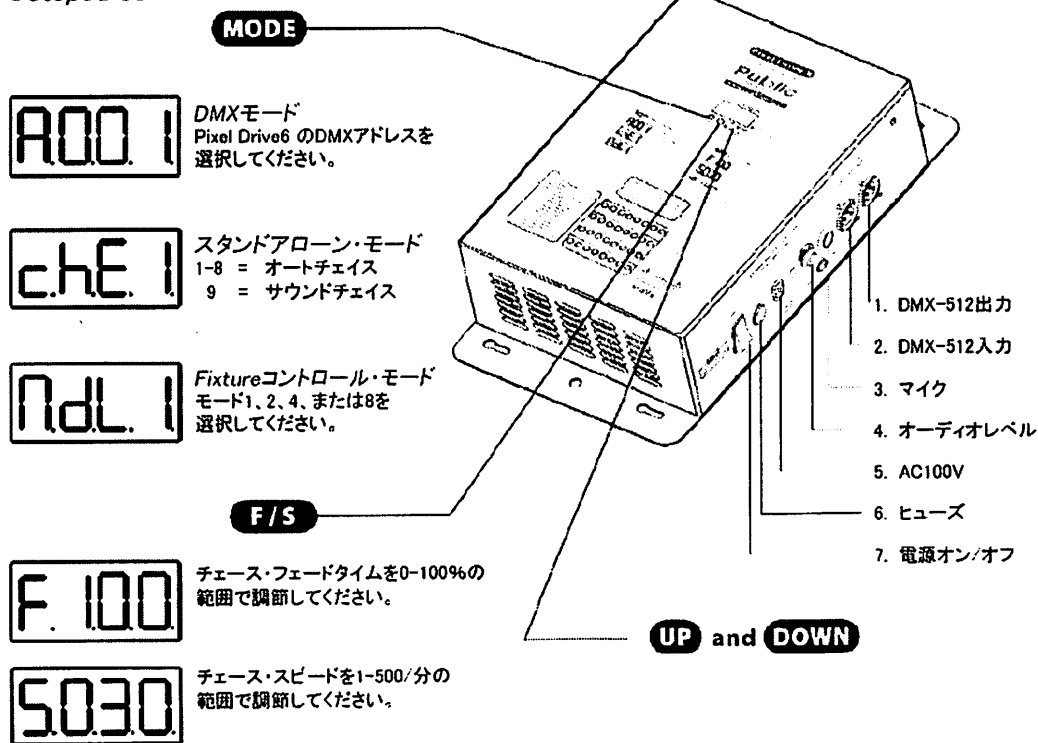
Octopod 30

F. 100 チェース・フェードタイムを0-100%の範囲で調節してください。

S.030 チェース・スピードを1-500/分の範囲で調節してください。

Octopod 80

F. 100 チェース・フェードタイムを0-100%の範囲で調節してください。

S.030 チェース・スピードを1-500/分の範囲で調節してください。

スタンドアローン機能

Pixel Drive 8 のフロントパネルに以下の 4 つのボタンが搭載されています。

CHASE メニューに入る為に MODE ボタンを押して下さい。

UP ボタンと DOWN ボタンを使ってチェース 1～9 を選択して下さい。チェース 1～8 は FADE と SPEED で設定された値に基づき動作し、チェース 9 を選択するとサウンドアクティブ機能に設定されます。

FADE と SPEED 値を設定するには F/S ボタンを押して下さい。

CHASE FADE TIME を 0～100%の範囲で設定します。

CHASE SPEED を 1～500 ステップ/分の範囲で設定します。

MANUAL COLOR MIXING メニューに入る為に MODE ボタンを押して下さい。

まず F/S ボタンを押して UP ボタンと DOWN ボタンを使って RGB 値を設定して下さい。

サウンドアクティブ機能

スタンドアローンモード時にチェース 9 を選択し、PIXEL DRIVE 8 のサイドパネルに位置する感度調整ダイアルを使って音声の入力レベルを調節して下さい。また DMX モード時にはチャンネル 6 を選択し、音声の入力レベルを調節して下さい。

DMX 操作

DMX アドレス設定メニューに入る為にモードボタンを押して下さい。

UP ボタンと DOWN ボタンを使って Pixel Drive の DMX スタートアドレスを設定して下さい。

DMX チャンネルの機能は以下の通りです。

チャンネル 1: レインボー
チャンネル 2: レッド (0～100%)
チャンネル 3: グリーン (0～100%)
チャンネル 4: ブルー (0～100%)
チャンネル 5: ストロボ (1～20Hz)
チャンネル 6: サウンドアクティブ / オーディオ入力感度

Octopod80 のチャンネル 6 には 8 つのモード(値:1～240)とサウンドアクティブ(値:241～255)があります。また、スピードとフェードを調節するにはチャンネル 1(スピード)とチャンネル 2(フェード)を調節して下さい。

チェース 1: 1～30
チェース 2: 31～60
チェース 3: 61～90
チェース 4: 91～120
チェース 5: 121～150
チェース 6: 151～180
チェース 7: 181～210
チェース 8: 211～240
サウンドアクティブ: 241～255

Pixel Drive は自動的に DMX 信号の有無を検索し、DMX 信号を検知するとフロントパネルの LED が点滅します。

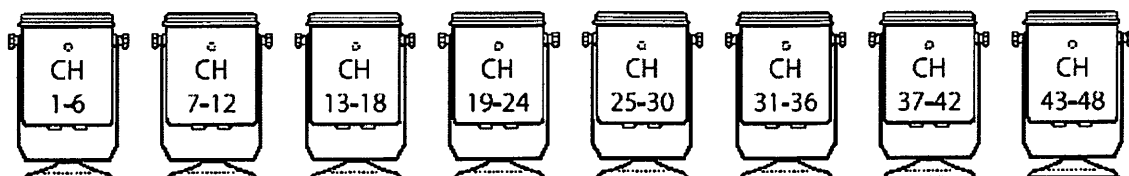
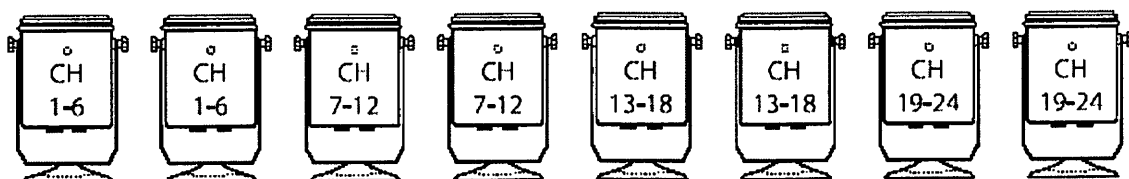
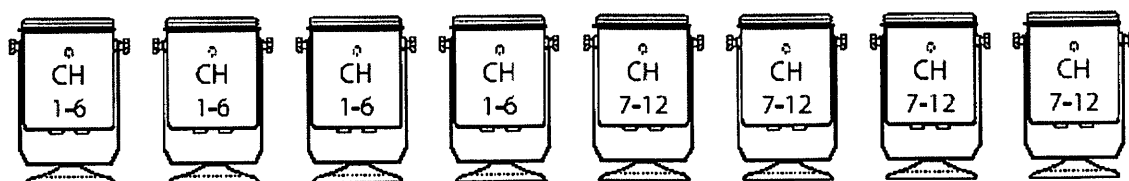
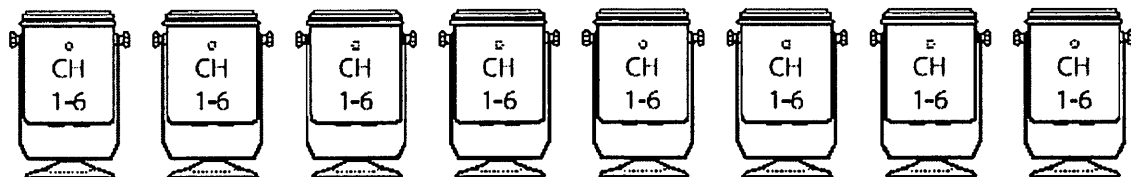
DMX 信号を受信するには DMX ケーブルを使用して Pixel Drive と DMX コントローラーを接続して下さい。この際 DMX コントローラーの電源はオンにして下さい。

DMX を使用して RGB カラーをミックスする際はチャンネル 1 をオフ(0)にして下さい。

シーンをプログラムする際、シーンを再生中にサウンドアクティブモードが動作しないように チャンネル 6 をオフ(0)にして下さい。

Octopod システムは 48、24、12、又は 6 チャンネルの DMX 対応灯体として操作することが可能です。DMX モード 1、2、4、又は 8 から選択して下さい。

DMX モード

MODE ボタンを押して DMX モード選択メニューに入って下さい。UP ボタンと DOWN ボタンを使って DMX モードを選択します。DMX モードの数値はセットごとに調節したい灯体の数を表しています。例えば DMX モード 2 では 8 台の灯体が 2 台ずつ、4 つのセットに分かれることになります。

DMX モード 8: 6 チャンネル動作
(同じ設定をした 8 台の灯体をまとめて調節します。)

ヒューズの交換

Pixel Drive のヒューズの交換は以下の図を参照して行って下さい。

- 電源ケーブルを本体から外して下さい。
- ヒューズを取り出し、交換を行って下さい。

仕様

Octopod 30

Pixel Drive 8 コントローラー

電源　:AC100V、50/60Hz
消費電力　:90W
サイズ　:160mm(W)×75mm(H)×305mm(D)
重量　:3.1Kg
ヒューズ　:1.5A 250V

Octopod 灯体

電源　:12V
消費電力　:10.8W
サイズ　:120mm(W)×120mm(H)×125mm(D)
重量　:0.38kg×8

Octopod 80

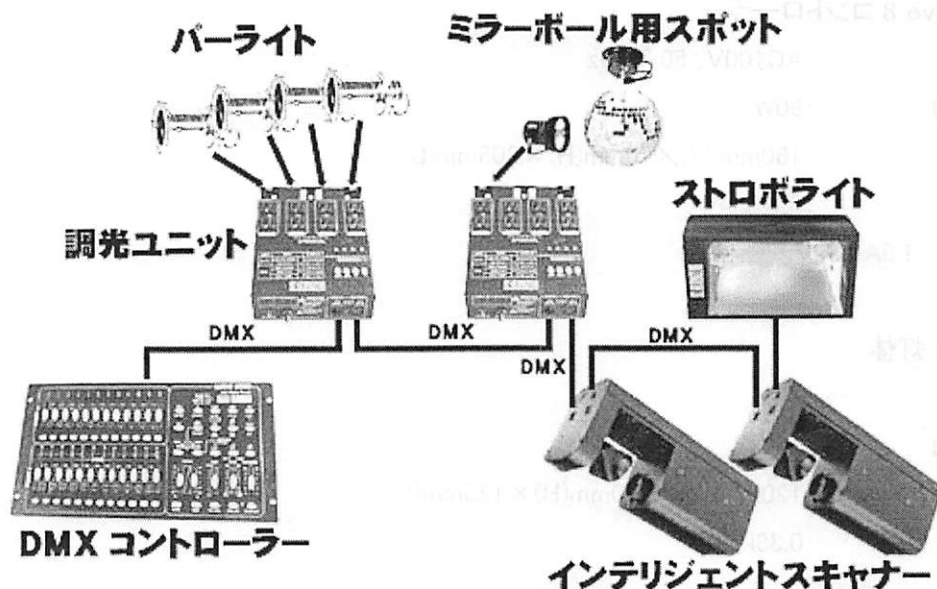
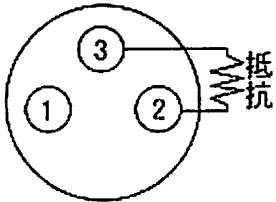
Pixel Drive X コントローラー

電源　:AC100V、50/60Hz
消費電力　:80W
サイズ　:200mm(W)×85mm(H)×360mm(D)
重量　:3.1Kg
ヒューズ　:2A /250V/

Octopod 灯体

電源　:24V
消費電力　:8.4W×8
サイズ　:95mm(W)×147mm(H)×115mm(D)
重量　:1.06kg×8

DMX 対応照明機器の基本的な接続方法

＜接続例＞

・DMX 対応の照明機器は、上の図の様に配線を行います。配線用ケーブルには DMX ケーブルもしくはマイクケーブルを使用して下さい。接続する台数に制限はありませんので、複数の照明機器を簡単に接続可能です。DMX 対応のスモークマシーンも同様に接続可能です。

・DMX 対応の照明機器を接続する順番は決まっていませんが、なるべく距離が長くならない様に配線を行って下さい(※)。

・調光ユニット(ディマー)を使用し、パーライト(PAR64 や PAR38 等)の明るさを調節します。

・インテリジェントスキャナーや、ストロボ等の電源は通常のコンセントからとって下さい。パーライト以外の照明機器の電源を調光ユニットから取った場合、動作が不安定になる、又は動作しない場合があるばかりか故障の原因にもなります。DMX 非対応のインテリジェントライトも同様に通常のコンセントから電源を取って下さい。

※－長距離の配線について－

50mを超えるような配線になる場合、DMX信号の伝達がうまくいかず照明機器の動作が不安定になることがあります。その場合、ターミネーターを作成/使用して下さい。ターミネーターとは最後に接続された DMX 対応照明機器の出力に差し込むダミープラグをさします。作成の方法は下記の作成方法を参照して下さい。

ターミネーターの作成方法

ご自身で作成できない場合は、お求めの販売店にお問い合わせ下さい。

 	･オスの XLR コネクターを使用し、120Ω 1/4W の抵抗を、 図の様に 2 番と 3 番ピンに接続しショートさせて下さい。